

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.33 2008年5月号

最近読んだ稲盛和夫氏の本で大変印象深いお話がありましたので、今月はこれについてご紹介しましょう。ひょっとすると、多くの人にとっては当たり前のようにご存知のことかもしれません。

私たちの人生を形成する要素には二つのものがある、一つはそれぞれの人がもって生まれた「運命」、もう一つは思ったことや行動したことが原因となって結果が生じる「因果応報の法則」だそうです。

「運命」そのものはすでに決まっているものであり、私たちが望んで動かせるものではないようです。勉強ができる、運動ができる、生まれつき健康かそうでないか、生まれた家がお金持ちか、そうでないかといったことなどは、私たち自身の努力ではなんともなりません。一方で、以前の「毎日楽しく」でも書いたように、何事も前向きに考えてみるとか、前向きに考えることができないのであれば、せめて不平不満や愚痴といった悪い言葉を使わないようにすることで、人生がよい方向へ向かうこともあるでしょう。稲盛氏は、この「因果応報の法則」のちからが、「運命」のちからよりも若干強いと言います。したがって、「因果応報の法則」を有効に使うことで、人は「運命」の流れも変えることができるそうです。ただし、これは稲盛氏が考えたものではなく、中国の古典にも載っていることだそうです。

自己啓発の本などを読むと、今の自分の状況はこれまで自分が思ったことや行動した結果があらわれたものであるという点が強調されすぎているために、ともすると、すべての責任は自分にあるという印象を受けることもあります。中には、「運命」などというものは存在しないというものもあります。でも、生まれつき病弱であるとか、何かの事故で若くして亡くなってしまうような場合にまで原因がすべて自分にあるというのは、なんとなく納得がいきませんでした。そういう中で、稲盛氏も言う、自分のちからではどうすることもできない「運命」は確かに存在し、でも、それよりも強い「因果応報の法則」を使うことで「運命」そのものの流れも変えることができるというお話は大変納得のいくものでした。

みなさんご自分の「運命」というものはあると思いますか？ また、それは変えられると思いますか？

